

2016年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、中央アジア、東シベリア、米国東部から大西洋西部で正偏差、太平洋北東部、カナダ北東部、地中海及びその周辺、中国南東部から日本の南で負偏差となった。ユーラシア大陸南部から日本付近にかけての亜熱帯ジェット気流は、平年の位置と比べ南寄りを流れた。シベリア高気圧は中心付近では平年より弱く、南東への張り出しは平年より強かった。帯状平均した対流圏の気温は、南半球の高緯度を除いて広く高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、太平洋赤道域、アフリカで活発、南シナ海～フィリピン東方、海洋大陸付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にインド洋、中旬に海洋大陸、下旬に太平洋を東進した。対流圏下層では、太平洋西部～中部で低気圧性循環偏差となった。太平洋赤道域では月の中旬は西部で、下旬はほぼ全域で西風偏差となった。対流圏上層では、太平洋中部で高気圧性循環偏差が南北半球対で見られた。南方振動指数は-0.1だった。

世界の天候

2016年3月の世界の月平均気温偏差は+0.62°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。3月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.85°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

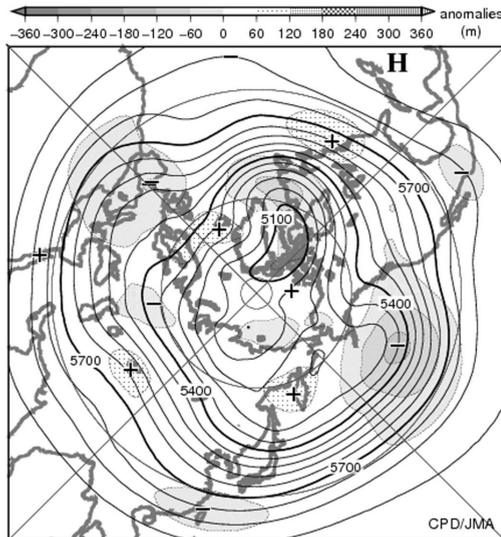
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- ヨーロッパ南東部及びその周辺では異常多雨となった。
- アルゼンチン北部及びその周辺では異常低温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

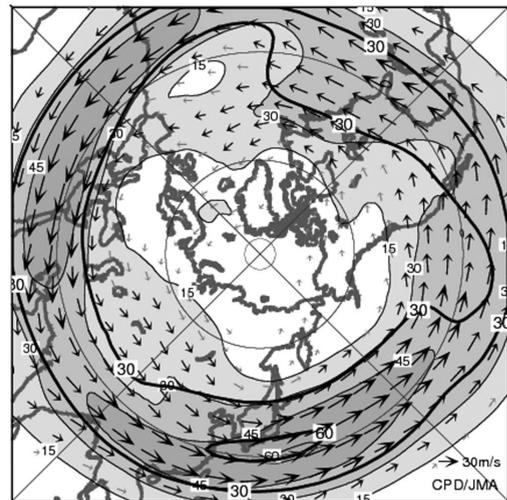
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



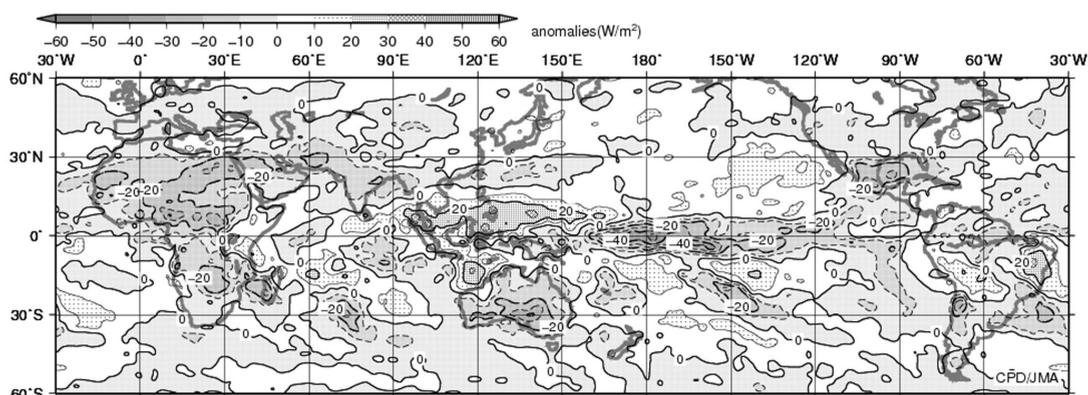
2016年3月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

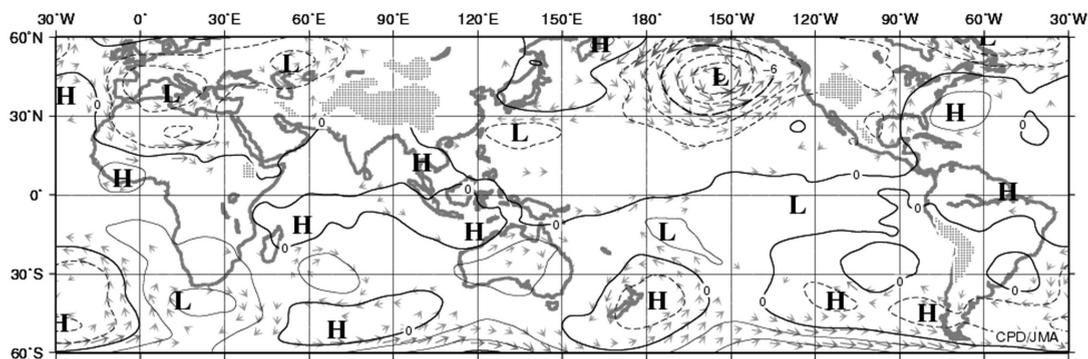


2016年3月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

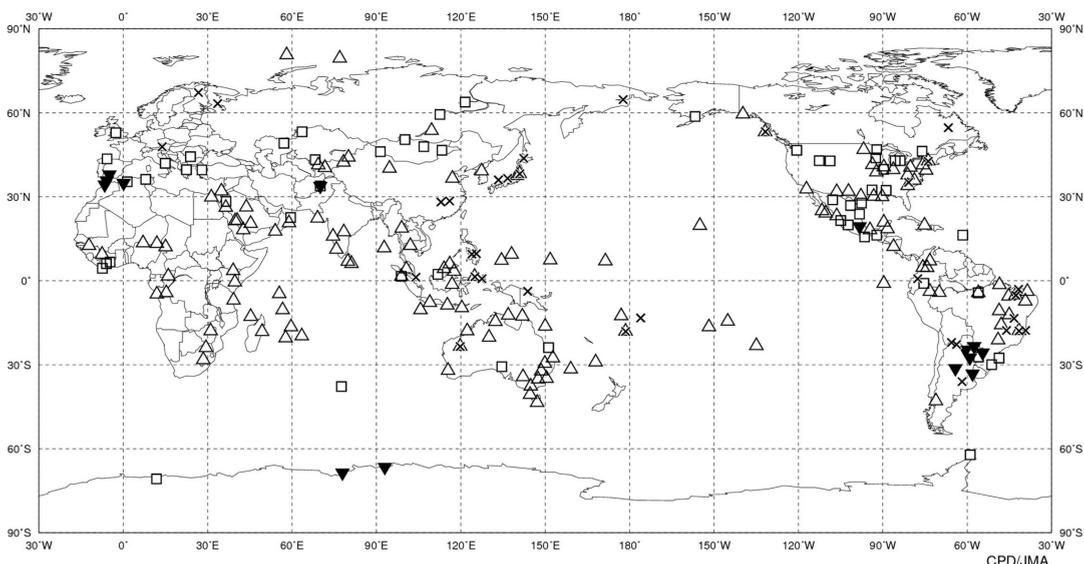
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2016年3月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。